

ひろしまイノベーション推進機構の投資先企業の決算状況について

〔令和3年2月12日〕
商工労働局

1 投資先企業の概要（現況）

企業名	株式会社なかやま牧場
代表者	代表取締役社長 増成 吉彦（ますなり よしひこ）
所在地	福山市駅家町法成寺1575-16
設立	昭和45年11月6日
資本金	5,000万円
従業員数	754名〔令和2年10月末現在〕
事業内容	肉牛の肥育，食肉加工，総合食品スーパーの一貫経営
機構投資時期	当初：平成27年8月31日，追加：平成28年10月28日
機構投資額	当初：4億円（増資引受け0.5億円及び劣後社債引受け3.5億円） 追加：3億円（劣後社債引受け0.5億円及び株式取得2.5億円） 譲渡等：投資額のうち2億円分について約5億円で譲渡（平成30年10月）

2 決算状況

○売上高及び損益

（単位：千円，千円未満切捨）

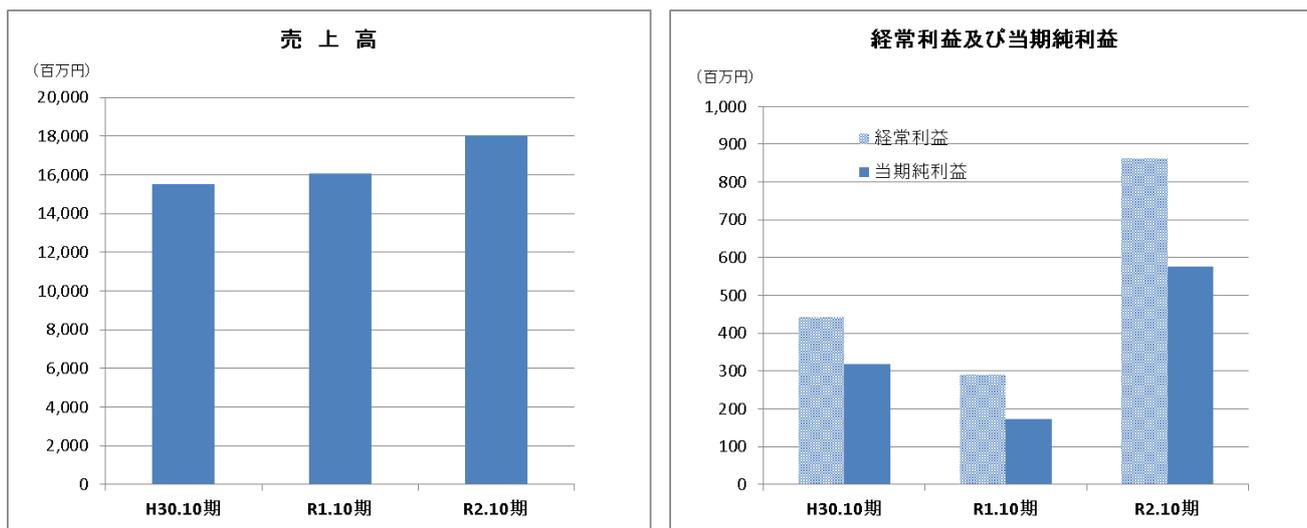
	平成30年10月期 （第48期）	令和元年10月期 （第49期）	令和2年10月期 （第50期）
売上高	15,533,704	16,043,090	18,035,226
経常利益	443,928	291,251	862,707
当期純利益	318,115	172,849	576,015

○貸借対照表の要旨

（単位：千円，千円未満切捨）

		平成30年10月期 （第48期）	令和元年10月期 （第49期）	令和2年10月期 （第50期）
資産の部	流動資産	5,376,556	5,700,273	6,344,172
	固定資産	4,144,410	4,956,630	5,451,986
	繰延資産	6,338	11,700	12,495
	合計	9,527,305	10,668,603	11,808,653
負債及び純資産の部	流動負債	3,352,301	3,821,361	4,342,565
	固定負債	1,858,095	2,366,414	2,418,174
	株主資本	4,316,909	4,480,828	5,047,914
	資本金	50,000	50,000	50,000
	資本剰余金	31,000	31,000	31,000
	資本準備金	31,000	31,000	31,000
	利益剰余金	4,877,136	5,041,055	5,608,141
	利益準備金	10,714	10,714	10,714
	その他利益剰余金	4,866,422	5,030,341	5,597,427
	自己株式	△641,226	△641,226	△641,226
合計	9,527,305	10,668,603	11,808,653	

【参考】



3 今期（令和2年10月期）の決算状況

- 今期の(株)なかやま牧場の売上高については、新型コロナウイルス感染拡大による外食需要の冷え込みから牛肉の卸価格が全国的に下落したこと等により、卸売業は減収となった。
- 一方で、令和2年1月に新規開店した店舗等が売上増に寄与したことや、コロナ禍での内食需要の高まりから、小売業は増収増益となったことなどにより、売上は前期から約19億9千万円増額となる180億円余を計上し、損益については、前期から約4億円増の5億7千万円余の純利益を計上し、増収増益となった。

4 今後の見通し

- なかやま牧場は、県内に本社及び大規模な牧場を構え、肉用牛として県内外で9千頭超を飼養するとともに、直営の総合食品スーパーマーケット「ハート」10店舗（県内7店舗、県外3店舗）をチェーン展開している。
- 全国トップ10規模の生産機能と併せて小売機能として総合食品スーパーを運営している企業は他に例がなく、幅広い客層に訴求できると同時に、他のスーパーとの差別化を図ることに成功している。
- なかやま牧場は、コロナ禍での牛肉卸売価格の下落や販売頭数の減少により、卸売業は減収となったものの、内食需要の高まり等により小売部門の売上が大幅に伸びていることに加え、経営指標の見える化や有効活用、中期経営計画の策定と実行に努めている等、業績は今後も順調に推移すると思われる。
- 機構においては、社外取締役2名を派遣し、引き続き経営をモニタリングしつつ、更なる成長に向けて迅速に意思決定ができる経営体制の構築支援を継続する。
- なお、平成30年10月には、当初想定していた成長戦略及び経営管理の強化等の支援も一定の成果があり、業績も安定成長してきているため、なかやま牧場と協議した結果、将来的な出口戦略（自社による買戻し等）の一環として、機構が保有する株式の一部をなかやま牧場に譲渡し、併せて、なかやま牧場が発行し機構が引き受けた社債の一部も償還している。